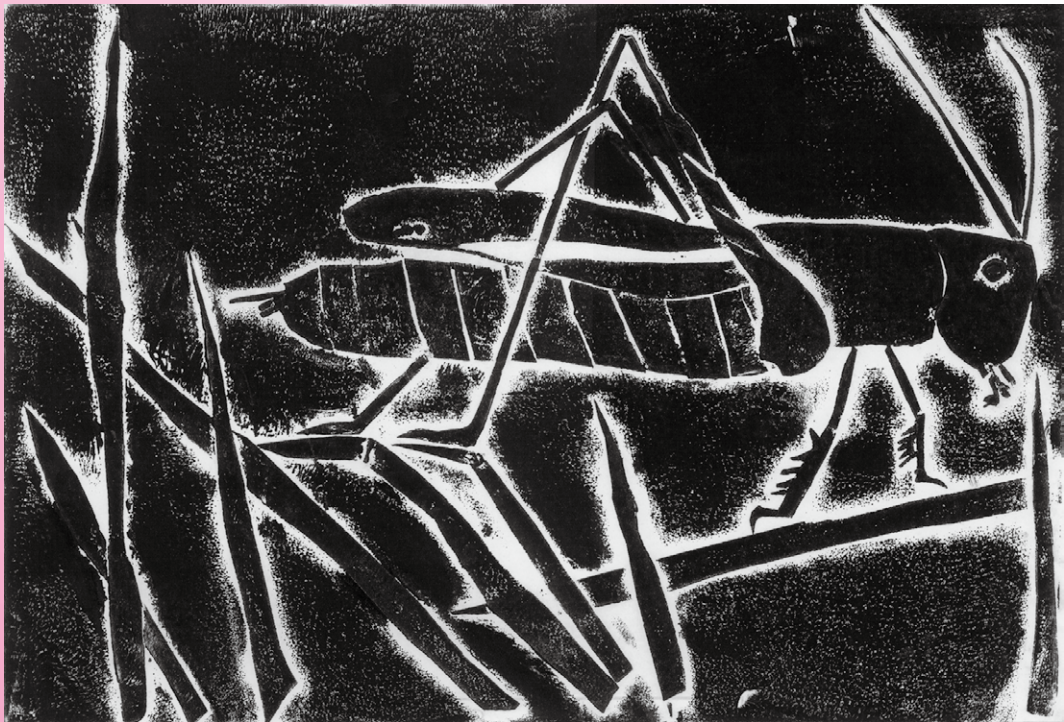


小学校低学年

大好きなキリギリス



岩間第一小学校 2年 大槻 京太郎

ぼく おにいちゃんになったよ

内容項目

4－(3) 父母，祖父母を敬愛し，進んで家の手伝いなどをして家族の役に立つ喜びを知る。

自殺予防との関連

この時期の児童は，自分が生まれてきた時のことを知らなかったり，自分は家族に愛され，大切に育てられていることをあまり意識していなかったりすることも多い。人格形成の基盤は「家庭」であり「家族の中でかけがえのない存在である自分」を実感することがとても大切である。

そこで，この資料を通して，生命が生まれることの素晴らしさ，そして一人一人の存在が家族のあたたかい思いに包まれていることに気づかせ，家族を大切にしようとする心情を育てていきたい。

板書の例

みんなが 生まれたとき	場面絵3 赤ちゃんを見て いるぼく ○じいんときた	場面絵2 家族と待つて いるぼく ○ドキドキ	場面絵1 お腹にさわって いるぼく ○やったあ	ぼく おにいちゃんになったよ	赤ちゃんの 写真
----------------	---	--	---	----------------	----------------------

本時のねらい

自分は家族の中でかけがえのない存在だと気づき，家族を大切にしようとする気持ちを育てる。

展開の例

時間	主な活動・発問と予想される反応 ○基本発問 ◎中心発問	教師の働きかけ □評価
5分	1 赤ちゃんの写真を見て感想を発表する。 ・かわいいね。 ・赤ちゃんて小さいね。	・赤ちゃんの写真を見ながら、思ったことや感じたことなどを自由に発表することを通してねらいとする価値への方向づけをする。
20分	2 資料「ぼく おにいちゃんになったよ」を読んで、ぼくの気持ちを想像し、発表する。 ○お母さんに「おにいちゃんになるのよ」と言われた時、ぼくはどんなことを思ったでしょうか。 ・やったあ。うれしいな。 ・早く生まれてこないかなあ。 ○部屋の前で「ドキドキ」した時、ぼくはどんなことを思ったでしょうか。 ・お母さん大丈夫かな。 ・生まれるって大変なんだ。 ・ぼくが生まれる時もこうだったんだ。 ◎生まれたばかりの赤ちゃんたちを見て胸がじいんとなった時、ぼくはどんなことを思ったでしょう。 ・弟ができてうれしいなあ。 ・生まれるってすごいなあ。 ・ぼくが生まれた時も、家族みんなが喜んでくれたんだ。	・場面ごとに「ぼく」の気持ちを疑似体験できるように、資料は分割提示をする。 ・場面絵を紙芝居のように提示する。 ・部屋の前で待っている「ぼく」の姿の場面絵を提示し、ドキドキしているぼくの気持ちを十分想像させ、中心発問へと結びつけていきたい。 ・教師が母親役（または父親役）、児童が「ぼく」の役になって気持ちを想像し、発表する。その時、児童に生まれたての赤ちゃんと同じ重さの赤ちゃん人形を持たせ、五感を通して命の重みを感じさせたい。
15分	3 家の人の手紙や写真を見ることを通して自分の考え方を見つめる。 ○お家の人から「みんなが生まれた時のこと」について手紙を書いてもらいました。読んで思ったことを発表しましょう。 ・生まれるまで大変だったんだ。 ・生まれた時みんな喜んでくれたんだ。 ・お母さん、ありがとう。	・手紙を家庭に依頼する時は、生まれるまでの様子や生まれた時の家族の気持ちを書いてもらうように通知等で趣旨を十分伝えておく。 □ 自分は家族の中で大切な存在であることに気づき、家族への感謝の気持ちを持ち、表現している。（発表・ワークシート）
5分	4 教師の説話を聞く。	・一人一人大切な存在だという内容の、教師自作の手紙を読んで余韻を残しながら終わらせた。

ぼく おにいちゃんになったよ

ぼくは、いつものように おかあさんの ひざに のっていました。すると おかあさんが、
 「としき、おなかに やさしく 手を おいてみて。」
 と いいました。ぼくは、しずかに おかあさんの おなかに 手を おきました。
 おかあさんの おなかは 大きく ふくらんで いました。よく 見てみると おなかがときどき うごきます。ぼくは、
 「あれっ おなかが うごいているよ。」
 と いいました。おかあさんは、わらいながら
 「うごいて いるでしょう。おかあさんの おなかの中には あかちゃんが いるのよ。もうすぐ としきは おにいちゃんに なるのよ。」
 といいました。ぼくは、おもわず
 「やったあ。」
 とさげびました。

11月のあるあさ、とつぜん おかあさんが、
 「あかちゃんが うまれそうよ。」
 と いいました。おとうさんの うんてんで いそいで びょういんに いきました。びょういんに つくと おかあさんは かんごしさんと いっしょに あかちゃんを うむへやに 入っていきました。ぼくは、おとうさんと おばあちゃんの 三人で へやの まえで まちました。かさまのおじいちゃんとおばあちゃんも きました。あかちゃんは、なかなか うまれません。みんな へやの まえで うろうろして います。ぼくは、おとうさんに
 「ぼくが、うまれる ときも こうやって みんなで まっていたの。」
 と きくと
 「そうだよ。としきのときも なかなか うまれなくて しんぱい したんだよ。」
 とおしえて くれました。おばあちゃんが、
 「おなかの中に ふたり いるから なかなか うまれて こないのかな。」
 と いいました。
 ぼくは、なんだか ドキドキしてきました。

そのときです。
 「おぎゃあ、おぎゃあ。」
 と あかちゃんの なきごえが しました。ぼくは、うまれたと おもいました。

おかあさんの へやに 入ると まっかなかおを している
 あかちゃんたちが いました。
 小さい からだを いっしょうけんめい うごかして います。
 おかあさんが、
 「としきおにいちゃん、おとうとたちを よろしくね。」
 と にこにこしながら いいました。

ぼくは、なんだか むねが じいんとなりました。



ぼく おにいちゃんになったよ

1ねん()くみ()ばん なまえ

○ むねが じいんと なったとき、ぼくは どんな ことを おもったでしょうか。

Handwriting practice area with a decorative border and two horizontal dashed lines.

☆ おうちの人 の 手がみをよんで かんじたことを かいてみましょう。

Handwriting practice area with a decorative border and eight horizontal dashed lines.

わたしのたんじょう

指導にあたって

1 題材設定の理由

自己肯定感が低い子どもは、自分の命を大切に思えないことがある。自分の命は両親や周りの人たちの喜びとともに誕生し、現在まで至ることを理解させる。そして、自己肯定感を高め、自分の命を大切に作る気持ちを育てたいと考えこの題材を設定した。

2 指導の流れ

(1) 事前指導

①事前に自殺予防教育第1学年道徳「ぼく おにいちゃんになったよ」を実施する。

(2) 事後指導

①書いた手紙を家庭に返し、保護者に感想をもらう。その感想は保護者の了解を得て子どもたちに紹介し、また、掲示物や学級通信などに活用する。

3 参考文献

「性教育実践資料集」(笠間市養護教諭部会作成)

板書の例


わたしのたんじょう

あかちゃんのときのじぶんをしろ

うれしい

たいせつに

やく280日



おかあさん

- ・えいようのあるたべものを食べる。
- ・おなかをあたためる。
- ・おもたいものをもたない。
- ・びょうきにきをつける。

家族が協力する絵

家族が協力する絵

赤ちゃんが生まれて喜んでいる絵

「てがみをかこう」

- ※ありがとうのきもち
- ※いのちをたいせつにする
- ※おともだちのいのちをたいせつにする

※中央の楕円は大きくなっていく胎児の写真または絵。ほぼ実物大で掲示する。

展開の例

時間	学 習 内 容	指導上の留意点 評 価
5分	1 本時の学習課題を確認する。	
	<p style="text-align: center;">あかちゃんのときのじぶんをしよう</p> <p>(1)赤ちゃんの写真や洋服を見て自分の成長に気付く。 ・小さいね。 ・ぼく、大きくなったなあ。</p> <p>(2)赤ちゃん人形を抱いて、生まれたばかりの大きさや重さを実感する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の誕生に関心をもてるように配慮する。 ・事前に赤ちゃん人形を教室に置き、関心を向けさせる。 ・人形を抱かせることにより、生まれた時の自分のことも想像させたい。
15分	2 生まれるまで、そして生まれた時の家族の思いを知る。	
20分	3 家族に感謝の手紙を書く。	
5分	4 本時の学習のまとめをする。	
	<p>書いた手紙をもとに、気付いたこと、これからの生活にむけて考えたこと、家族への気持ちを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんは母親の子宮で約280日間大切に育てられることや、母親がその間ずっと赤ちゃんを気遣いながら生活していたことを説明する。 ・母親だけではなく、家族みんなで赤ちゃんが生まれてくることを待ち望んでいたことをおさえる。 ・事前に実施した道徳「ぼく おにいちゃんになったよ」の授業を振り返り、授業時に家族からもらった手紙を活用しながら話し合う。 ・家族に書く手紙でどんなことを伝えたいかを発表させ、全体で確認する。 <p>評 自分が家族に大切にされていることに気づき、自分の命や友達の命を大切にしながら生活しようとする。 (手紙・観察)</p>


わたしのたんじょう

1ねん()くみ()ばん なまえ

1 おうちの人へおてがみをかきましょう。

^

より



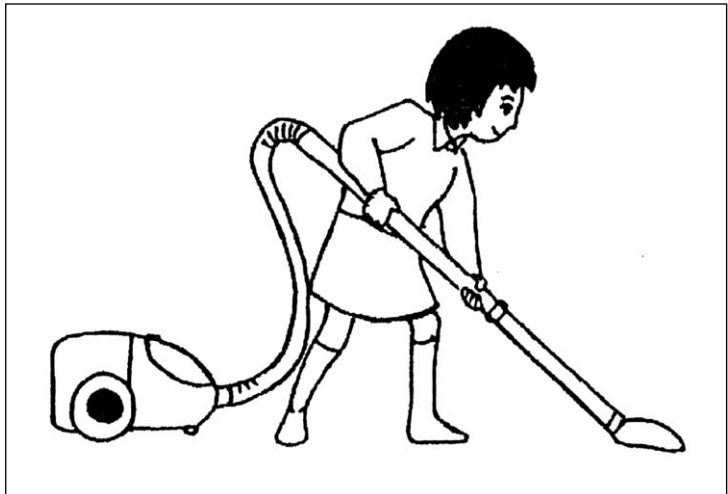
2 おうちの人にかんそうをかいてもらいましょう。

掲示資料

1. 胎児の成長の様子 (掲示の仕方)



2. 家族の協力の絵



関連資料

心のノート小学校1・2年「みんな みんな 生きて いるよ」



横断歩道で

内容項目

2-(4) 日頃世話になっている人々に感謝する。

自殺予防との関連

この時期の児童は、周囲の人々に支えられたり助けられたりして自分が存在するという意識は薄い。人々の善意に気づくことは、自分の存在意義を知ることになり、ひいては自他の生命を大切にする人間尊重の精神を養う。

そこで、この資料を通して「日頃お世話になっている人々の存在」に気づき、「自分が感じた感謝の念」を言葉や態度で素直に表そうとする気持ちや態度を育てていきたい。

板書の例

わたしたちのために・・・。

笑顔のおじさんの挿絵

・・・

「おはようございますね。」

夜考えたこと

・・・

横断歩道の写真

・・・

ケンタくんの気持ち

「横断歩道で」

お世話になっている人
 おとうさん おかあさん
 先生 上きゆう生

本時のねらい

他者への感謝の気持ちを持ち、伝えようとする態度を育てる。

展開の例

時間	主な活動・発問と予想される反応 ○基本発問 ◎中心発問	教師の働きかけ 評 評価
5分	1 日頃お世話になっている人は誰かを考えて発表する。 ・おとうさん ・おかあさん ・先生	・日頃お世話になっている人に思いをめぐらし、価値への方向づけをする。
20分	2 資料「横断歩道で」を読んで「ケンタくん」の気持ちを想像し、発表する。 ○横断歩道で止められたときケンタくんはどんなことを思ったでしょう。 ・どうして止めるの？ ・遅刻しちゃうじゃないか。 ・いやなおじさんだ。 ・まだ渡れるのに。 ○この夜ケンタくんはどんなことを考えたでしょう。 ・おじさんに悪いことをした。 ・命を助けてくれたんだ。 ・あやまろうかな。 ◎にっこり笑ったおじさんはどんな気持ちだったでしょう。 ・わかってくれてよかった。 ・命を大切にしてほしい。 ・気をつけて行ってらっしゃい。 ・気持ちがよい。	・資料は分割提示とし、範読する。場面ごとに区切って発問する。 ・場面を想像できるような絵を示す。 ・主人公の気持ちを率直に表現できるように、受容的な取り上げ方を心がける。 ・様々な思いをめぐらす主人公の気持ちに共感できるように受容的に取り上げる。 ・「主人公は明日どうしようと思ったか」と補助的に問いたい。 ・おじさんの思いを体感するため、実際に気持ちを込めて声に出すなどの工夫をするように助言する。
5分	3 どんな場面で誰にお世話になっていたか思い出したことを発表する。 ・登下校のとき交通パトロールの方に ・登校班で上級生に ・買い物のお店の人に ・学校で先生に	・どんな場面でどんなお世話になったか、具体的に発表できるようにじっくり考えさせる。
10分	4 お世話をしてくれた人に感謝の気持ちを伝えるメッセージを書く。	・ワークシートに感謝の手紙を書く。 評 日頃お世話になっている方に感謝の気持ちを持ち、表現している。 (発表, ワークシート)
5分	5 教師の説話を聞く。	・児童の感謝の気持ちが伝わり、新しい関係も生まれるので、実際に手紙を相手に届けるような配慮をしたい。 ・児童が気づきにくい人を紹介するような話をする。

横断歩道で

ケンタくんが まいあさ とおる 横断歩道には、こわいかおをした おじさんがいつも立っています。足が わるいようで、少し ひきずって 歩いています。おじさんは 雨の日も 風の日も、あさも かえりも、いつも ケンタくんたちを見はっていました。ケンタくんたちは、なるべく そのおじさんと 目が あわないようにしていたのです。

ある日、ケンタくんは ちこくしそうになって あわてて いました。「いってきます。」のかわりに「おかあさんが おこして くれなからだっ!!おかあさんの せいだ!!」とどなって、いえを とび出したのです。

学校の まえにある 横断歩道の しんごうが ピカピカ ひかりだしました。「あっ、赤になっちゃう。」ケンタくんは いそいではしり出しました。そのとき「こらーっ!!」という かみなりのような こえと いっしょに、ケンタくんの ランドセルは ぐいっとうしろに ひっぱられました。あの おじさんです。おじさんは とても こわい かおをして ケンタくんを にらみつけました。

学校につくと、ケンタくんは 先生に、「まだ わたれたのに あの おじさんのせいでちこくしました。」と いました。先生は ちょっと こまった かおをして いました。ほかごになると、先生は ケンタくんを よんで、こんな はなしを してくれました。

あの おじさんには、小学生の 子どもが いたこと。その子が こうつうじこで なくなったこと。おじさんの 足も そのときの じこの せいだということ。それから ずっと、おじさんは 横断歩道で 子どもたちを 見まもっていること……。

ケンタくんは、なんだか むねの おくが じいんと しびれて きました。先生は ケンタくんの あたまを ちょっと なでて「きをつけて かえりなさい。」と いました。

つぎの 日の あさです。横断歩道には やっぱり あの おじさんが 立っていました。こわい かおをして 立っていました。でも ケンタくんは ゆうきを出して 言いました。

「おはようございます!」

ちょっと おどろいた かおを したあと、おじさんは にっこりと わらいました。

なんだか きもちの いい あさでした。



おうだんほどう
横断歩道で

2年()組()番 名前()

◎ にっこり笑ったおじさんはどんな気持ちだったでしょうか。

Writing area for the first question, featuring a decorative border and horizontal dashed lines.

☆ お世話になっている方にお礼のお手紙を書きましょう。

Writing area for the second question, featuring a decorative border and horizontal dashed lines. Includes a small 'へ' character at the top and the word 'より' at the bottom right.

家ぞくのためにできること

指導にあたって

1 題材設定の理由

小学校に入学し1年が経過している。学校では自己中心的な行動から様々なトラブルが発生することが多くなり、家庭ではわがままな行動が多くなる時期でもある。小さな集団や家族の中でも、相手を思いやることでよりよく生活できることに気づいていないことも多い。

そこで、自分が生まれてから今まで、家族のたくさんの愛情のもとに大切にされて成長してきたことを振り返ることで、自分の一番身近にいる家族への感謝の気持ちを育てたい。また家族の思いや願いに応え、自分ができるところを実践しようとする態度を育てるため、この題材を設定した。

2 指導の流れ

(1) 事前指導

①母の日や父の日、敬老の日など、その時期に話題にして家族の大切さを話し合う。

(2) 事後指導

①長期休業中の「お手伝い」など、実践できた児童について紹介し、継続していけるように励ます。


②新聞やニュース等で命の大切さや家族の大切さに関することがあれば、この学習に関連づけて話題にする。

(3) 留意事項

保護者参観等を利用して行うことで、児童の実践への意欲化を図ることができる。家庭環境や家族構成は一人一人違うので、それぞれの家庭状況について把握しておくことが大切である。配慮が必要な児童が学級に在籍している場合には、言葉の使い方等に気をつける。

板書の例

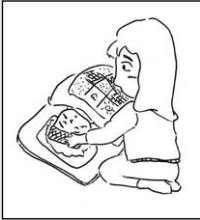

家ぞくのためにできることをかんがえよう！！



たくさんお世話
になっている

- かぜやびょうきの時
- たんじょうびなどのおいおい

家ぞくの思い

- 大きくなってほしい
- けんこうで元気でいてほしい
- たのしく学校で生活してほしい

わたしにできること

学校で

- *げんきに学校へ行く

家族のために

- *お手つだいをする
- *

展開の例

時間	学 習 内 容	指導上の留意点 [評] 評価
10分	1 自分が生まれてから現在まで、たくさんお世話になって育ってきたことや大切な家族がいたことについて話題にし、本時の学習課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の体験などを交えながら、家族のありがたさについて考えさせる。 ・誕生日のお祝いなど大切な記念日を考えさせ、成長を喜んでいることについて確認する。
家ぞくのためにできることをかんがえよう！！		
15分	2 家族のことについて話し合う。 (1)今まで面倒をみてもらったり、迷惑をかけてしまったりしたことについて話し合う。 ・病気の時に心配してくれた。 ・誕生日を喜んでくれる。 ・朝早くからごはんを作ってくれる。 ・私たちのために、働いている。 (2)面倒をみてくれる家族はどんな思いや願いがあるのか考え話し合う。 ・元気に大きくなってほしい。 ・学校に楽しく通ってほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的に家族について話題にしなが話し合いを進める。 ・「家族の思いやりやありがたさ」の伝わる絵本等を活用し、読み聞かせながら話し合いを進めることもできる。 ・どのように大きくなってほしいのかなど、家族の思いや願いについて考えさせながら話し合う。
15分	3 家族の思いや願いに応えるために、今の自分にできることを考え、がんばりカードに記入する。 (1)学校のできること ・休まずに学校に行く。 ・学校の出来事を話してあげる。 ・勉強を頑張る。 「かんじ」「かけざん九九」など (2)家族のためにできること ○お母さんへ ○お父さんへ ・雨戸しめをする ・新聞を取ってきてあげる ○おじいちゃんへ ○おばあさんへ ・かたたたきをしてあげる	<ul style="list-style-type: none"> ・より実践しやすくするためにも、具体的なものを紹介し、称賛しながら活動を進める。 ・普段お世話になっていることや、家族からよく言われているようなことを思い出しながら記入させる。 ・感謝する気持ちを伝えていくためにも、家族一人一人についてより具体的に考えるよう助言する。 [評] 家族のためにできることを具体的に考え、実践しようとする。 (がんばりカード・話し合い)
5分	4 記入した内容を確認し合い、教師の話聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が決めたことを、実践すると家族が喜ぶことを確認し、今後の意欲づけを図る。

「家ぞくのためにできること」

がんばりカード

2年()組()番 名前()

- お世話せわになっている家ぞくのために、今の自分ができていることをかんがえてみましょう。
- 家ぞくによるこんでもらうために、どんなことができるかな？

わたしが「学校でがんばること」は

です。

わたしが「家ぞくのためにできること」

..... ^

わたしが「家ぞくのためにできること」

..... ^

*厚紙などに印刷しておき「家ぞくのためにできること」をカード化して、それぞれの相手に手渡しすることもできる。(枚数も増やすことができる。)

コラム①

自殺予防について、教師のできること・できないこと

いじめや自殺が起こると、マスコミは「なぜ発見できなかったのか」「どうして防げなかったのか」と教師の責任を追及します。しかし、「それ以上に、生徒の自殺の危険に早期の段階で気づいて、教師が適切な救いの手を差し伸べている場合が圧倒的に多い」と、ある精神科医も指摘しているように、実際には教師の誠実な態度が多くの子どもの自殺を防いでいるのです。

教師は子どもにとって身近な大人のモデルです。「先生、なぜ人は生きていかなければならないの」と問われたとき、真摯にその問いを受けとめ、長所もあれば短所もある生身の人間として、自分の言葉で答えることが大切です。そのためには、教師自身が自殺や死に対する自らの価値観を確認する機会をもつこと、そしてできれば、「人生そう捨てたものじゃないよ」と言えるように自らの経験を広げていくことが必要です。

しかし、なかには防げない自殺もあります。教師は自分の限界を知りつつ、できるところで精一杯子どもに関わっていくことが大切なのではないでしょうか。専門性とは、「自分のできないことが何かを知っていること」だと言われます。自分の限界を知らずに万能感を抱いて子どもに関わることは、「共倒れ」という最悪の結果を招きかねません。そうならないためには、難しい問題にはチームで関わることです。問題を一人の教師が抱えこむのではなく、できるだけ多くの教師が組織的に関わることで、柔軟な子ども理解や丁寧な対応も可能となります。「三人寄れば文殊の知恵。一人でできないこともチームであたれば何とかできる。困ったことがあればどんどん相談する」と協働することの有効性や楽しさを教師自身が知り、子どもに伝えていくことは、教師自身のメンタルヘルスの観点からも、子どもの自殺予防の観点からもとても大切なことです。

日常ちよっと愚痴をこぼしたり、困っていることを気軽に相談し合える職場の人間関係を築くことができれば、職員室は教師にとっての「心の居場所」となるでしょう。そうすれば子どもたちも、苦しいときもあれば楽しいときもある、弱音を吐いたり相談することは恥ずかしいことではない、助け合うことで何とかできる、ということを実感していくのではないのでしょうか。教師にとっても、子どもにとっても「心の居場所」となるような学校づくりを目指していくことが、学校における最も本質的な自殺予防であるように思われます。

「教師が知っておきたい 子どもの自殺予防教育」より(平成21年3月)文部科学省